

医療機関アンケート集計結果等について【岐阜圏域版】

平成30年8月に実施した「医療機関アンケート」の回答があった医療機関を一覧にしています。

No	医療機関名	圏域	所在地	2017年7月1日時点機能別病床数 ① 【H29年度病床機能報告結果】					将来（2025年）の病床機能の予定 ②					②-①					備考			
				合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他（休棟等）	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他（休棟・廃止等）	合計	高度急性期	急性期		回復期	慢性期	その他（休棟等）
1	岐阜県総合医療センター	岐阜	岐阜市	604	326	264		14		620	326	264		30		16	0	0	0	16	0	
2	岐阜市民病院	岐阜	岐阜市	559	207	352				539	187	352				▲ 20	▲ 20	0	0	0	0	
3	羽島市民病院	岐阜	羽島市	271		178	76		17	271		178	93			0	0	0	17	0	▲ 17	
4	岐阜大学医学部附属病院	岐阜	岐阜市	577	577					577	527	50				0	▲ 50	50	0	0	0	
5	松波総合病院	岐阜	笠松町	501	262	60	120	59		501	262	60	179			0	0	0	59	▲ 59	0	
6	長良医療センター	岐阜	岐阜市	416		236		180		416		236		180		0	0	0	0	0	0	
7	東海中央病院	岐阜	各務原市	332	12	241	64	15		332	12	241	64	15		0	0	0	0	0	0	
8	岐北厚生病院	岐阜	山県市	316		144	60	60	52	262		120	88	54		▲ 54	0	▲ 24	28	▲ 6	▲ 52	
9	岐阜赤十字病院	岐阜	岐阜市	300	10	290				268	10	258				▲ 32	0	▲ 32	0	0	0	
10	朝日大学病院	岐阜	岐阜市	400	17	250	133			381	17	252	112			▲ 19	0	2	▲ 21	0	0	
11	岐阜清流病院	岐阜	岐阜市	372		168	116	88		372		113	171	88		0	0	▲ 55	55	0	0	
12	医療法人社団慈朋会澤田病院	岐阜	岐阜市	233		60		173		200		50	50	100		▲ 33	0	▲ 10	50	▲ 73	0	
13	医療法人 社団誠広会 平野総合病院	岐阜	岐阜市	199		199				187		109	78			▲ 12	0	▲ 90	78	0	0	

No	医療機関名	圏域	所在地	2017年7月1日時点機能別病床数 ① 【H29年度病床機能報告結果】					将来（2025年）の病床機能の予定 ②					②-①					備考			
				合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	その他 (休棟 等)	合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	その他 (休棟・ 廃止等)	合計	高度 急性期	急性期		回復期	慢性期	その他 (休棟 等)
14	愛生病院	岐阜	笠松町	153			25	128		117			25	92		▲ 36	0	0	0	▲ 36	0	36床介護医療院へ転換
15	岩砂病院・岩砂マタニティ	岐阜	岐阜市	132		92	40			132		92	40			0	0	0	0	0	0	
16	山内ホスピタル	岐阜	岐阜市	129		61		68		129		61		68		0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 (6年後の機能)を用いる
17	近石病院	岐阜	岐阜市	125		39	44	42		125		39	44	42		0	0	0	0	0	0	
18	岐阜ハートセンター	岐阜	岐阜市	120	120					120	120					0	0	0	0	0	0	
19	医療法人和光会 山田病院	岐阜	岐阜市	113		57	56			113			113			0	0	▲ 57	57	0	0	
20	早徳病院	岐阜	岐阜市	100		40		60		100		40		60		0	0	0	0	0	0	
21	みどり病院	岐阜	岐阜市	99		55	44			99		55	44			0	0	0	0	0	0	
22	笠松病院	岐阜	岐阜市	88		45		43		88		45		43		0	0	0	0	0	0	
23	城南病院	岐阜	岐阜市	60				60		60				60		0	0	0	0	0	0	
24	岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター	岐阜	岐阜市	53				53		53				53		0	0	0	0	0	0	
25	関谷内外科病院	岐阜	岐阜市	40				40		40				40		0	0	0	0	0	0	
26	操外科病院	岐阜	岐阜市	35		35				35		35				0	0	0	0	0	0	
27	医療法人社団志朋会 加納渡辺病院	岐阜	岐阜市	34		34				34		34				0	0	0	0	0	0	
28	操レディスホスピタル	岐阜	岐阜市	32		32				32		32				0	0	0	0	0	0	
29	操健康クリニック	岐阜	岐阜市	19		19				19		19				0	0	0	0	0	0	
30	芥見診療所	岐阜	岐阜市	19				19								▲ 19	0	0	0	▲ 19	0	②について、未記入のため、H29年度 病床機能報告結果（6年後の機能）を用 いる。 ①介護医療院への転換を予定

No	医療機関名	圏域	所在地	2017年7月1日時点機能別病床数 ① 【H29年度病床機能報告結果】					将来（2025年）の病床機能の予定 ②					②-①					備考			
				合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	その他 (休棟 等)	合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	その他 (休棟・ 廃止等)	合計	高度 急性期	急性期		回復期	慢性期	その他 (休棟 等)
31	くまざき内科	岐阜	岐阜市	19				19				19				0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 (6年後の機能)を用いる
32	古田産科婦人科クリニック	岐阜	岐阜市	19		19						19				0	0	0	0	0	0	
33	高橋産婦人科	岐阜	岐阜市	19		19						19				0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 (6年後の機能)を用いる
34	小林内科	岐阜	各務原市	19				19				19				0	0	0	0	0	0	
35	フェニックス総合クリニック	岐阜	各務原市	19			19					19				0	0	0	0	0	0	
36	フェニックス在宅支援クリニック	岐阜	各務原市	19			19					19				0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 (6年後の機能)を用いる
37	そはら赤座医院	岐阜	各務原市	19				19				19				0	0	0	0	0	0	②について、未定のため、 H29年度病床機能報告結果 (6年後の機能)を用いる
38	花林レディースクリニック	岐阜	羽島市	19		19						19				0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 (6年後の機能)を用いる
39	いとらレディースケアクリニック	岐阜	北方町	19		19						19				0	0	0	0	0	0	
40	岐阜泌尿器科	岐阜	岐阜市	18					18			18				0	0	0	18	0	▲ 18	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 (6年後の機能)を用いる
41	松原医院	岐阜	岐阜市	18				18				18				0	0	0	0	0	0	
42	永田産婦人科	岐阜	各務原市	18		18						18				0	0	0	0	0	0	
43	医療法人若葉会 さとうファミリークリニック	岐阜	北方町	18				18				18				0	0	0	0	0	0	
44	福富医院	岐阜	岐阜市	17		17									▲ 17	0	▲ 17	0	0	0	0	介護医療院への転換を予 定
45	医療法人社団恵愛会モアレディースクリニック	岐阜	北方町	17		17						17				0	0	0	0	0	0	
46	おおのレディースクリニック	岐阜	岐阜市	16		16						16				0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 (6年後の機能)を用いる
47	こめの医院	岐阜	笠松町	16				16				16				0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 (6年後の機能)を用いる

No	医療機関名	圏域	所在地	2017年7月1日時点機能別病床数 ① 【H29年度病床機能報告結果】					将来（2025年）の病床機能の予定 ②					②-①					備考			
				合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	その他 （休棟 等）	合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	その他 （休棟・ 廃止等）	合計	高度 急性期	急性期		回復期	慢性期	その他 （休棟 等）
48	堀部クリニック	岐阜	本巣市	15				15				15		0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 （6年後の機能）を用いる		
49	西岐阜産婦人科医院	岐阜	岐阜市	10		10						10		0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 （6年後の機能）を用いる		
50	まつなみ健康増進クリニック	岐阜	笠松町	10		10						10		0	0	0	0	0	0			
51	服部耳鼻咽喉科	岐阜	岐阜市	9		9						9		0	0	0	0	0	0			
52	サンライズクリニック	岐阜	岐南町	6		6						6		0	0	0	0	0	0			
53	はっとりクリニック	岐阜	岐阜市	4		4						4		0	0	0	0	0	0			
参考資料3-1【小計】				6,794	1,531	3,134	816	1,226	87	6,568	1,461	2,901	1,157	1,049	0	▲ 226	▲ 70	▲ 233	341	▲ 177	▲ 87	※精査中

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
1	岐阜県総合医療センター	岐阜	<p>【理念】県民の皆様方に信頼され、患者さん本位の安全で良質な全人的医療を提供します。</p> <p>【施設状況】ICU8床、PICU6床、NICU12床、MFICU6床</p> <p>【職員数(常勤)】医師179名、看護師629名、その他専門職217名、事務80名</p> <p>【特徴】高度急性期及び急性期病床を中心とし、救急、がん、循環器、周産期、小児、災害医療を重点医療とした医療を提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・救急、がん、循環器、周産期、小児、災害医療を重点医療とする質の高い急性期医療の提供 ・回復期、慢性期を担当する病院、在宅医療機関との連携、機能分化の確立 ・重症心身障がい児入所施設の運営
2	岐阜市民病院	岐阜	<ul style="list-style-type: none"> ・理念…心にひびく医療の実践 ・診療実績(H29年度) <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者数 175,514人 ・外来患者数 330,730人 ・入院平均在院日数 11.7日 ・職員数(平成30年4月1日現在)…計847人(定数) ・特徴…岐阜圏域の急性期医療の中心的役割を担う ・政策医療…救急医療、小児医療、精神科医療、災害医療、認知症医療 	<p>岐阜県地域医療構想に基づく岐阜圏域における急性期病院としての役割を担ううえで、今後の高齢化に伴う救急搬送患者、重症患者の増加に対応していく必要がある。このため、重症者管理病床の見直しなど、救急及び重症患者部門の充実を図る必要がある。</p>
3	羽島市民病院	岐阜	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県地域医療構想において、当院は、地理的に必須な二次救急医療、急性期医療を担う病院として位置づけられている。 ・当院は診療圏における唯一の公立病院として救急機能・急性期機能を持つことで地域医療を守るという存在意義を果たす必要がある。 ・救急機能・急性期機能に加え、地域に不足している回復期機能を担うべく、地域包括ケア病棟76床を稼働させている。 ・診療所を中心として行われる在宅医療を支えるべく、在宅療養後方支援病院としても地域医療における役割を担っている。 <p>【病床数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・許可病床281床：一般病床271床(うち地域包括76床)、結核病床10床 <p>【職員数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度末328人 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の生活基盤として必要不可欠な二次救急医療・急性期医療機能に加え、地域に不足している回復期機能を担うべく地域包括ケア病棟76床を稼働させている中で、更に診療所を中心として行われる在宅医療を支えるべく、在宅療養後方支援病院としても地域医療における役割が求められているが、今後、地域包括ケアシステムを構築していく中で、必要な医療機能を備えた体制を確保するために、医師をはじめとする必要な医療スタッフを確保することが課題である。
4	岐阜大学医学部附属病院	岐阜	<p>本院は、2025年に向けての将来ビジョンを制定した。その中で最も重要と考えているのは「最高のサービスを患者に届ける最高の病院の確立」および「高度医療拠点としての機能強化と地域医療への貢献」である。いわゆる5疾患5事業といわれる「がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患」「救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児救急医療を含む小児医療」は当然、質の高い医療を追求するが、それ以外の領域についても質の高い医療を追求している。</p>	<p>(小児外科)</p> <p>小児救急医療の中でも小児外科分野の設置が、岐阜圏域の小児医療に貢献できる分野であり、かつ、特定機能病院でもある本院の役割であると考えている。また、岐阜県唯一の医育機関として、小児外科分野の指導医を以て将来この分野の人材を育成していくことも本院の役割として重要であると考えており、近い将来、小児外科を設置する予定である。</p> <p>(感染症科)</p> <p>「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン」及び「新興・再興感染症診療」にバランスよく対応できる医療機関は岐阜県内にはまだない。また、岐阜県の海外渡航者数は国内でもトップクラスであるにも関わらず、輸入感染症等に対する備えは必ずしも十分ではない。さらに国公立大学附属病院では感染症科を設置している施設は2015年4月時点で48.2%を数え、半数を超えつつある。このような現状を踏まえ、岐阜県唯一の医育機関として感染症科の設置を目指し、その設置に向けた課題について検討を進める。</p> <p>(被ばく医療)</p> <p>高度急性期を担う中心的役割を担う病院としては、被ばく医療の受け入れ体制整備が必要であると考えており、今後、人的・物的体制等の課題について検討を行う予定である。</p>

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
1	岐阜県総合医療センター	岐阜		岐阜地域の基幹病院として、近隣の医療機関との役割分担・連携の下、高度・先進医療、急性期医療、政策医療等の県民が必要とする質の高い医療を提供する。	【新設】 遺伝子診療科(仮称) 【理由】 医療技術の発達に伴い、今後遺伝子診療の充実を図る必要があるため。
2	岐阜市民病院	岐阜		<ul style="list-style-type: none"> 救急医療・がん医療を軸とする高度・専門医療の提供 政策医療(救急医療、小児医療、精神科医療、災害医療など)の提供 地域医療機関との連携による切れ目のない「地域完結型」医療の提供 	
3	羽島市民病院	岐阜	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア病床における病床利用率が92.7%(平成29年度)と高く、将来的には回復期の病床の不足が見込まれることから、病床機能の転換の検討も視野に入れる必要があると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の生活基盤として必要不可欠な二次救急医療・急性期医療機能を果たしつつ、地域に不足している回復期機能、及び在宅療養後方支援の機能を担う地域医療サービスを提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から31年度にかけて、非常勤医師のみで診療を実施している外来診療科につき、地域での必要性と採算性の軸から存続可能性について客観的に評価し、十分に議論を行った上で、検討する。 人口構成の変化や立地等の条件に基づく診療圏のニーズに合わせた病床機能、在宅医療支援機能の強化、その他新規の事業形態についても、必要性と採算性の軸から客観的に評価し、十分に議論を行った上で、検討する。
4	岐阜大学医学部附属病院	岐阜	高度急性期病床を50程一般急性期病床にシフトする。	地域医療構想において「岐阜大学医学部附属病院(高度救命救急、ドクヘリ基地、基幹災害拠点、がん県拠点等)が県全体の急性期医療の中心的役割を担い、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院が、岐阜大学医学部附属病院と連携して、岐阜圏域の急性期医療の中心的役割を担う。」とされていることから、本院として、この方針に沿った役割を担う。	(新設)岐阜県唯一の産科施設として、小児外科、感染症科を設置する。 (変更)2017年9月16日開催の平成29年度第4回日本神経学会理事會にて、学会として標榜診療科名を「神経内科」から「脳神経内科」に変更することが決定されたことにより、当院でも変更を検討している。

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題															
5	松波総合病院	岐阜	<p>○当院の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院は、高度急性期病棟・急性期病棟・回復期病棟・慢性期病棟の複数の機能をもつ病棟のある「ケアミックス病院」である。 ・病床数は501床あり、4機能のうち、高度急性期病床・急性期病床で約7割弱を占めており、地域に高度な医療の提供を行っている。 <p>(当院の病床機能)</p> <table border="1"> <tr> <td>病床機能区分</td> <td>病床数</td> <td>内訳</td> </tr> <tr> <td>高度急性期</td> <td>262</td> <td>ICU(8床)、HCU(20床)</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td>60</td> <td>急性期一般病棟(入院料1)(60床)</td> </tr> <tr> <td>回復期</td> <td>120</td> <td>回復期リハビリテーション病棟(60床)</td> </tr> <tr> <td>慢性期</td> <td>59</td> <td>障害者病棟(59床)</td> </tr> </table> <p>○当院における医療提供と総合的質管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度からBSCやQC活動を各部門、部署で行い、医療の質の向上に努めている。その結果として、平均在院日数や病床稼働率は高水準を維持することが出来ている。 【(平成29年度)平均在院日数:12.7日 病床稼働率:92.3%】 ・届出入院基本料(特定入院料含む)は、6つの施設基準の届出を行っている。 *特定集中治療室管理料3 *ハイケアユニット入院医療管理料2 *急性期一般入院料1 *回復期リハビリテーション病棟入院料1 *地域包括ケア病棟入院料2 *障害者施設等入院基本料(10対1) <p>(平成30年4月)</p> <p>○当院の担う政策医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5疾病・5事業については、各診療科が垣根を越えて連携体制を敷いており、チーム医療として提供している。 ・5疾病・5事業と在宅医療に関しては、すでに地域と連携を行っているが、平成29年度より精神科に常勤医師を迎え、今後増加傾向にある精神領域の疾患、特に認知症に関しては、入院患者だけでなく、地域におけるケアを中心となっていく体制を構築している。 ・救急医療において、開設以来24時間365日救急患者を断らないことをモットーに羽島郡のみならず、岐阜市南部、羽島市、各務原市および県外である愛知県一宮市の救急隊からの救急要請に対応し、地域の救急医療体制の維持に貢献している。また、平成29年10月より救急科の標榜や救急ワークステーションを実施し、「ドクターカー」などで医療が現場へ出ていく体制を整え、迅速な救急医療の提供に務めている。 ・地域の高齢者の骨折や誤嚥性肺炎に対して、専門的な知識を持つスタッフによるチーム医療で栄養サポートや口腔ケア、嚥下訓練、運動リハビリを介入することで、早期に発症を予防することができている。 ・国民的な疾患である高血圧、糖尿病、脂質異常症に対しては、法人内の人間ドック・健診センターとの連携を図り、地域一帯の生活習慣病管理を行っている。 	病床機能区分	病床数	内訳	高度急性期	262	ICU(8床)、HCU(20床)	急性期	60	急性期一般病棟(入院料1)(60床)	回復期	120	回復期リハビリテーション病棟(60床)	慢性期	59	障害者病棟(59床)	<p>○岐阜圏域南部地域の急性期医療・救急医療について</p> <p>岐阜圏域では当院の他に、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院的4施設が急性期医療の中心的役割を担っている。当院は屋上にヘリポートを設置しているが、現状年間数例の利用しかされておらず、今後ヘリポートの利用件数を増やす必要がある。また、昨年より運用を開始した救急ワークステーションについては、出動先の医療現場でより高度な医療が提供できよう「ドクターカー」の更なる整備も必要である。岐阜圏域において当院は、最も南部に位置しており、近隣には羽島市民病院があるので、より関係を深め、急性期医療・救急医療において岐阜圏域南部地域の中心的役割を担っていく病院として一層の機能の充実と体制強化を図る必要がある。</p> <p>○災害医療について</p> <p>地域災害拠点病院としての責務を果たすため、DMATを2チーム編成しており、災害対応の職員の危機管理意識の向上、「松波総合病院災害対策マニュアル」に基づいたより具体的な災害実働訓練(災害発生時の各職員の役割分担の徹底)を実施している。また、全日本病院医療支援班(AMAT)として、要請があった際に研修を修了した職員を隊員として被災地に派遣しているが、広域(愛知県含む)における災害訓練を行う必要がある。</p> <p>○へき地医療について</p> <p>社会医療法人の使命として以前より中濃地区等に医師派遣を実施しているが、今後は、さらに他部門において中濃地区等の医療事情に合わせた医師の派遣が必要である。</p> <p>○周産期医療について</p> <p>県の地域医療整備計画「岐阜南地域における周産期医療協力病院としての責務を果たしてきているが、産後ケア(笠松町育児ほほえみ相談)も含め、更なる充実と拡大が必要である。</p> <p>○小児科医療について</p> <p>小児科医療(小児救急も含む)も提供しているが、今後は小児発達障害児等の増加が考えられ、医師だけではなく臨床心理士の側面からのサポートも必要である。</p> <p>○質の高いがん診療の強化</p> <p>岐阜県がん対策推進計画を踏まえ、当院が岐阜圏域でがん診療に果たす役割を十分考慮した上での診療実績、人的配置、地域連携、相談支援、人材育成等に関して取り組みが必要である。</p> <p>○急性心筋梗塞対策について</p> <p>急性心筋梗塞の医療提供体制において、当院は心臓CT検査や心臓カテーテル検査などの必要な検査・専門的治療を24時間提供する医療機関(心臓カテーテル治療施設)であり、冠動脈バイパス手術などの外科的な治療も可能な医療機関(心臓外科治療施設)でもある。また心大血管リハビリテーション料(1)の届出を行っており、早期治療や再発予防、早期リハビリ、危険因子の管理等が行える体制にあることから、関係機関との連携体制の更なる強化を図っていく必要がある。</p> <p>○脳卒中対策について</p> <p>脳卒中の医療提供体制において、当院は急性期医療機関であるが、回復期リハビリテーション病棟も持つ医療機関でもある。また、脳卒中の発症後3時間以内に専門的な治療ができる超急性期医療機関として、地域内での中心的役割を担っていく必要がある。</p> <p>○糖尿病対策について</p> <p>糖尿病の基幹的医療機能を持つ病院(岐阜医療圏7施設・但し岐阜大学病院を含む)及び糖尿病合併症に対する専門病院(網膜症、慢性腎不全、心血管障害、末梢血管障害、脳血管障害)として、地域内での中心的役割を担っていく必要がある。</p> <p>○精神疾患対策について</p> <p>今後、超後期高齢者社会となる中、精神領域特に認知症患者の入院・外来患者だけではなく地域におけるケアを当院が中心となっていく必要がある。</p> <p>○在宅医療支援の推進</p> <p>高齢社会となり、在宅医療は、重要医療事業の一つに追加され、今後益々重要性が増してくる。羽島郡医師会と協同して、地域の在宅療養支援診療所及び介護サービス事業所や当法人の訪問看護・介護事業所との連携による急変時の受け入れを強化することによる在宅医療支援に力を入れる必要がある。</p> <p>○共同利用の推進</p> <p>当院では、近年ダウインチ、3テスラMRIや360列CT等の高額医療機器を整備し、高度な医療提供体制を整えている。今後、更なる地域の医療機関と密接な連携と機能分担を図り、無駄な医療費の削減を目的とした医療資源の効率活用を図る必要がある。</p> <p>○放射線治療について</p> <p>放射線治療件数は増加しているが、当院の放射線治療装置の寿命が近づいており、放射線治療装置を買い替え、地域がん診療連携拠点病院認可取得のため、より高度な治療が行えるようグレードアップをしなければならない。</p>
病床機能区分	病床数	内訳																	
高度急性期	262	ICU(8床)、HCU(20床)																	
急性期	60	急性期一般病棟(入院料1)(60床)																	
回復期	120	回復期リハビリテーション病棟(60床)																	
慢性期	59	障害者病棟(59床)																	

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
5	松波総合病院	岐阜	2019年度から2020年度中に地域に不足する回復期機能を提供するため、南館5階病棟(59床)を慢性期から回復期に転換を図る予定である。	<p>○岐阜圏域南部地域の急性期医療・救急医療について 岐阜圏域では当院の他に、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院の4施設が急性期医療の中心的役割を担っていく。この中で当院が最も南部に位置していることを踏まえ、3病院の指導・協力を受けながら、岐阜圏域南部地域の急性期医療、救急医療の中心的役割を担っていくべきである。また、当院の屋上ヘリポートを活用することで、遠隔地からの「ドクターヘリ」による患者搬送を積極的に受け入れることができ、早期医療介入と救命率の向上を目指し、将来的に救命救急センター認可取得を目指したい。</p> <p>○災害医療について 大規模災害訓練等を実施しているが、今後は広域(愛知県含む)での医療・介護施設及び各行政との連携を踏まえた災害医療提供の訓練を実施し、DMATをはじめ災害に備えた医療体制の提供およびBCPの更なる構築を目指したい。</p> <p>○へき地医療について 中濃地区等に医師派遣を実施しているが、今後は更に中濃地区その他地区も含め医療事情に合わせた医師の派遣を実施し、社会医療法人の使命を果たしていく。</p> <p>○周産期医療について 岐阜南地域における周産期医療協力病院としての責務を果たしてきているが、産後ケアも含めた対応が必要であり、今後も更に行政(笠松町育児ほほえみ相談)との連携を含めて、より広範囲な地域での産後ケアの拡大に努めていきたい。</p> <p>○小児医療について 引き続き小児科医療(小児救急も含む)も提供していくが、更に小児発達障害児等の増加が考えられ医師だけでなく臨床心理士によるサポート体制強化を図っていく。</p>	<p>【新設】 老年内科、乳腺外科、甲状腺内科、ペインクリニック外科、移植外科、アレルギー科</p> <p>【理由】 ・岐阜圏域南部の地域医療を維持するために、現在標榜している診療科を維持しつつ、新オレンジプランにおける認知症予防や高齢者の肺炎予防として歯科(口腔外科)(2018年度開設済)及び老年内科を新設、総合的に対応していく。 ・岐阜圏域南部に専門的な医療を提供する施設がないため、下記の診療科を新設し、地域に高度な医療を提供していく。 (乳腺外科、ペインクリニック外科、移植外科、甲状腺内科、アレルギー科)</p>

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
6	長良医療センター	岐阜	呼吸器疾患(結核を含む)は、呼吸器系腫瘍、呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息について取り組んでおり、慢性閉塞性肺疾患は岐阜地域連携バスの事務局として中心的な役割を果たしている。また、肺癌手術、化学療法や放射線治療も行っている。 循環器内科は、カテーテル検査からペースメーカー移植、心臓リハビリを実施している。 周産期は、ハイリスク症例を対象とし、小児・小児外科とともに地域周産期母子医療センターとして機能している。 神経筋疾患(筋ジストロフィーを含む)・重症心身障害等を有する障がい児(者)は、ショートステイから長期入院まで幅広く対応している。	結核病床を52床有しているが、結核の1日平均患者数が、17名という状況であり、年々患者数が減少傾向にあるが、当院は岐阜医療圏唯一の入院施設であり、岐阜県から病床数維持への要請を強くうけていること、また特別養護老人施設等での集団発生や外国人の受入で一時的に患者数が増加することがあるため、計画的に減床に取り組みにくい状況である。 心臓血管外科の医師の退職に伴い対応可能な循環器疾患が限定されることや成人系の診療科が呼吸器科・循環器科のみであるため、消化器疾患・内分泌・外科系疾患の対応が困難であり、救急受入件数が伸び悩んでいる状況である。
7	東海中央病院	岐阜	・自施設の理念:最高の誠意、最善の医療 ・基本方針:患者様尊重の医療、診療機能の向上、健全経営の維持 ・自施設の診療実績 届出入院基本料:急性期一般入院料1、ハイケアユニット入院医療管理料、緩和ケア病棟入院料、地域包括ケア病棟入院料 平均在院日数:15.7日(平成30年5月~7月) 病床稼働率:87.8%(平成30年7月 一般病床241床) ・自施設の職員数(平成30年7月) 医師:64.1、看護職員:366.8、その他専門職:99.4、事務職等:936.6 ・自施設の特徴(4機能のうち、急性期が中心)	救急入院や一般入院の受入れは増えているが、常勤医師を確保出来ておらず、常勤医師の負担が増加している。このため、救急対応などについては非常勤医師を増員して対応している。 常勤医師の増員と併せて、働き方改革は最重要課題であるため、臨床研修医を増やし、将来の医師確保に繋げたい。
8	岐北厚生病院	岐阜	病床稼働率については、病院全体では季節的な変動が見られますが、平成28年10月の地域包括ケア病棟開設以降、一般病棟の稼働率は80%以上で推移し、また、平均在院日数は短縮傾向となり、効率的な病床運営となっております。緩和ケア病棟では、稼働率は80%前後で推移しています。紹介による入院が多く、特に、岐阜大学医学部附属病院・岐阜市民病院・県総合医療センターから多くの患者を受け入れています。 病床機能としては、必要な急性期機能を有した上で、回復期、慢性期及び在宅医療等に積極的に取り組み、各医療機関及び介護施設等、関係機関と連携することで圏域北部において、切れ目のない医療機能を担う病院としての一翼を担っています。地域包括ケア病棟では、急性期からのポストアキュート(急性期医療を経過した患者の受け入れ)、在宅等からのサブアキュート(介護施設や在宅の療養者の容態が悪化した場合に受け入れ)、リハビリテーションなど在宅復帰支援等を行う機能を有し、地域包括ケアシステムを支える役割を担っています。また、在宅療養後方支援病院として、地域の医療機関等との連携を強化・拡充し、在宅や介護福祉施設等からの急性増悪患者の受け入れを積極的に行っています。 ※ 詳細については「岐阜県厚生農業協同組合連合会岐北厚生病院公的医療機関等2025プラン」参照	① 医師の確保について ア) 常勤医師の確保 平成29年4月現在、常勤医師は24名で、常勤診療科は内科、外科、整形外科、泌尿器科及び小児科(外来診療のみ)となっております。その他診療科は非常勤医師で対応しており、救急医療と診療体制の更なる充実に向け医師確保が必要です。 イ) 新専門医制度への対応 新専門医制度により、専攻医の確保は困難と想定され、基幹施設との更なる連携強化が必要です。 ② 働き方改革への対応について 医師をはじめとした医療従事者等の時間外労働等が社会問題化しており、国は医師について、今後5年間でその方向性を示すとしています。救急医療を含む診療体制を安定的に担う上で更なる医師確保と働き方の見直しを検討する必要があります。 ③ 施設の耐震化への対応について 施設の老朽化と狭隘化を解消し、耐震性のある病院の整備を図るため、施設整備計画を進めています。 ※ 詳細については「岐阜県厚生農業協同組合連合会岐北厚生病院公的医療機関等2025プラン」参照

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
6	長良医療センター	岐阜		呼吸器・循環器疾患は、地域の高齢化率が高いことから、地域支援病院として急性期医療機能を引き続き担っていく。 周産期は、地域周産期母子医療センターを維持するとともに、小児科・小児外科・産科が連携して他院との医療従事者の相互派遣や研修等を行い圏内の産科医療体制の安定化に寄与していく。 障がい者医療(神経筋疾患・重症心身障害)は神経内科医師を配置してより専門的な医療を提供するとともに、神経難病も受入できる体制を構築する。NICU退院後の障がい児の在宅医療への移行に向けて、退院前後の訪問指導を行うなど家族が安心できる環境・体制を構築し、地域生活支援を行う。	
7	東海中央病院	岐阜		(1)引き続き、地理的に急性期医療を要する病院として、救急医療、脳卒中、心血管疾患、整形疾患への対応を中心とした急性期医療の提供体制を維持し、同時に地域包括ケア病棟にて地域における回復期機能の一翼を担う。また、既に実績を上げている緩和ケア医療については、継続して地域における終末期医療の中核としての役割を果たす。 (2)地域医師会や開業医との連携推進や市の行政や地域福祉との連携を継続し、患者や市民サービスの向上に努める。	
8	岐北厚生病院	岐阜	○2018年度より急性期病床として報告している緩和ケア病床24床を①急性期の積極的な療養を行う対象ではない患者の医療を行っていること、②在宅医療を推進していること、③他病院の回復期病床と同じくらいの平均在院日数であることから回復期病床へと転換予定としています。 ○2018年度より施設の老朽化、耐震化のため施設整備を予定しており、施設整備後(2021年予定)に医療資源の有効活用、経営の効率化を図るため病床の再編と削減を行い、病床数を316床から262床へ削減を予定しています。	限られた医療資源の中で「地域完結型」の医療を支える役割を担う必要があります。今後、更に高齢者の比率が高まるなか、地域の医療需要に応えるため、地理的要因により急性期から回復期・慢性期医療まで中核的役割(中核病院)を担います。具体的には、4疾病の診療体制の充実、救急医療の体制の維持、災害時の医療提供体制の維持、地域医療機関等との連携の推進及び予防医療の促進に取り組むと共に、地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割を担います。 ※ 詳細については「岐阜県厚生農業協同組合連合会岐北厚生病院公的医療機関等2025プラン」参照	

高度急性期	急性期	回復期	
慢性期	合計		
2017病床機能			
0	196	60	60
316			
2018病床機能(予定)			
0	172	84	60
316			
2025病床機能(予定)			
0	120	88	54
262			

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
9	岐阜赤十字病院	岐阜	平成29年度の患者状況について、外来患者は昨年度と比べてほぼ横ばい、入院患者については減少し、一般病床の稼働率も減少傾向にあったが、重症患者の割合は29.6%と30%近い水準を保っている。紹介率は70.3%、逆紹介率は89.8%となっており、地域医療支援病院として、医療提供体制改革に即した地域医療連携の強化を行っている。また同年度の平均在院日数は11.06日となっており、診療の効率化も進んでいる。看護については、高齢者が増加していく現状を踏まえ、職員の夜間配置を12対1とした他、認定看護師の育成にも取り組む等、医療の質向上を図り、より患者に寄り添う看護を行っている。	2025年に向け、県内の必要病床数は減少傾向であるのに対し、在宅医療等患者数は今後大きく増大する見込みである。診療報酬においても、急性期病院による在宅医療への関わりは重要視されており、当院としても機能の充実に図りたい。
10	朝日大学病院	岐阜	一般病棟のほか、回復期リハビリテーション病棟及び地域包括ケア病棟を有しており(3病棟)、院内からのポストアキュート機能を中心として在宅への円滑な復帰を進める医療体制を構築している。2次救急機関であり、さらに脳卒中への対応として脳卒中ホットラインを備え、24時間365日、専門の医師により治療に当たっている。さらに、本学が歯学部を有していることから、歯科口腔外科を中心とした歯科の2次医療機関としての性格も有している。このほか、総合健診センターにおいて予防医学にも注力している。	一般急性期病院として、地域開業医からの紹介患者のさらなる受入確保が必要であり、一方で在宅への流れを促進するために逆紹介の一層の促進が必要である。また、今後は、回復期機能の病棟においてサブアキュート機能の向上を図り、病診、病病さらに医介の連携を強化することで、地域貢献を果たす必要がある。また、歯学医師が多数在籍していることから、摂食嚥下に対する体制の構築・整備を図り、本学の特長を最大限活かすことが必要である。さらに、働き方改革が進む中で救急医療体制の再構築が迫られる一方で医療提供体制の維持・充実に課題となる。
11	岐阜清流病院	岐阜	岐阜医療圏西部・北西部エリアでのケアミックス病院として、県下でも有数の規模のリハビリテーション施設、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟を有し、地域基幹病院、かかりつけ医、介護施設などと連携し、地域包括ケアシステムの中で24時間365日対応の救急医療から、地域の急性期、回復期、慢性期、在宅医療、緩和ケアまでのシームレスな医療・介護・リハビリサービスを提供する。 ・急性期一般入院料5、地域包括ケア病棟入院料2、療養病棟入院基本料1、回復期リハビリテーション病棟入院料3、緩和ケア病棟入院料1 ・職員数(常勤のみ)医師12人、看護師132人、准看護師13人、看護補助者33人、薬剤師4人、理学療法士23人、作業療法士17人、言語聴覚士5人、臨床検査技師6人、診療放射線技師7人、診療工学士5人、管理栄養士3人、その他69人 ・ケアミックス型の病院 ・救急指定病院(岐阜市 二次救急輪番制病院)	・常勤医師の確保(内科、リハビリテーション科、整形外科等) ・看護師、看護補助者、理学療法士、作業療法士等の確保
12	医療法人社団慈明会澤田病院	岐阜	・急性期病院からの転入先として患者さんの受け入れを主に行っている。 ・主に療養目的患者さんが多い(リハビリ目的も含む)	・転院してきた患者さんの退院先がなかなか決まらない。 ・在宅への退院に関してご家族様の協力がなかなか得られない。
13	平野総合病院	岐阜	一般病床199床(うち地域包括ケア病床38床、H29.4より52床の非稼働病棟)の一般急性期病院。	岐阜市北西部地域における地域包括ケアシステムの中心的な役割を担うべく、現在の非稼働病床を療養病床として再稼働すること。
14	愛生病院	岐阜	慢性期医療を中心とした医療を展開し、医療区分の割合も80%後半から90%前半を常時維持できている。約1年前に開設した回復期リハビリテーション病棟も稼働は順調である。しかし回りハ病棟はFIM得点が伸びていない。また平成30年8月に既に介護療養病床を介護医療院に転換し、在宅機能を持ったことで、地域包括システムの理念である「可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける」という役割の一端を担う体制になっている。	在宅復帰、その中でも自宅に復帰し、その後の生活をサポートする体制の強化が必要と考える。そのためにはリハビリテーション機能、訪問看護、訪問介護のさらなる機能強化が課題である。一方で多死社会に向けて、医療区分の高い患者の受け入れ機能の強化、看取り機能の強化も課題である。従来のように病院中心とした看取りのみならず、自宅、施設での看取りが多くなるざるを得ない為、医療法人として幅広い看取りの場に対応する体制を整える必要がある。地域包括ケアシステムの中で、地域の他の医療機関、介護施設、行政との関係をより強化する必要がある。
15	岩砂病院・岩砂マタニティ	岐阜		・特に周産期において医師確保は喫緊の課題であり、限られたリソースをどう効率的に共有するか、今後岐阜医療圏で検討する必要がある。
16	山内ホスピタル	岐阜		

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
9	岐阜赤十字病院	岐阜		地域医療構想で求められている災害拠点病院、感染症指定医療機関の役割を果たしつつ、高度急性期や急性期としての病院機能を維持していくことになるが、その規模については引き続き検討が必要である。一方で高齢化が進み、独居高齢者や老齢世帯が増加し、家族による介護力低下や地域コミュニティのサポート体制の脆弱化が進む中、地域医療支援病院として在宅医療への関わりも重視すべきであると考えている。訪問看護ステーションの開設、赤十字健康生活支援講習等指導員の地域への派遣等、様々な内部資源を地域包括ケアシステムに最大限に生かしながら、地域住民や行政等と連携した活動を推進し地域福祉の充実に寄与したいと考えている。	
10	朝日大学病院	岐阜		糖尿病、透析、整形、脳卒中の分野に特色があり、これらの専門性をさらに充実させる。 また、急性期機能と回復期機能を有していることから、リハビリをさらに高度化させることで、入院から退院、在宅復帰までをシームレスに対応し、患者の健康寿命を支えることに貢献する。 また、歯科領域の診療体制もさらに整備し、医科・歯科連携を充実させ、摂食嚥下への対応において質の向上を図る。 さらに、総合健診センターを中心とした予防医学の促進により生活習慣病予防等をさらに充実させ、医療費の削減、適正化に貢献する。	【新設】 皮膚科 【理由】 入院患者の皮膚科疾患は、現在、往診等を含め外部の開業医に診察を依頼している。 患者の利便向上等を勘案し、医師の確保ができ次第、開設したい。
11	岐阜清流病院	岐阜	2020年頃を目途に、急性期機能の55床を回復期機能病床、または介護系の病床に転換予定。	医療法人清光会として、法人内連携を含めて、地域での医療・介護・リハビリの総合施設として、救急医療、急性期、回復期（地域包括ケア病棟、回復期リハビリ病棟）、緩和ケア、介護（医療型サ高住、介護医療院等）の複合展開を行い、病院・介護施設からの早期退院・退所の促進、在宅患者、要介護者の急性増悪などへの対応により、患者・地域医療機関や介護事業者などと連携し地域医療を維持する。	
12	医療法人社団慈明会澤田病院	岐阜	平成35年までに全面改築予定 一般病棟・医療療養病棟・回復期病棟の転換予定	当院としては周りの急性期病院からの受け皿としての役割を今後も維持していく予定	
13	平野総合病院	岐阜	H30.12より西2階病棟を療養病棟へ転換予定。	現在の非稼働病床を療養病床として再稼働し、岐阜市西北部地域における地域包括ケアシステムの中心的な役割を担う。	
14	愛生病院	岐阜		・バックベッドとしての役割。 ・自宅での療養、介護の支援。	
15	岩砂病院・岩砂マタニティ	岐阜			
16	山内ホスピタル	岐阜			

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
17	近石病院	岐阜	地域ニーズを最優先に考え、病診連携に力を入れている。	経営的に考えた場合、ニーズと相反する状況がある。
18	岐阜ハートセンター	岐阜	1. 循環器専門病院として手術室:2室、ハイブリッド手術室:1室、カテ室:2室、心臓超音波検査室:4室、128マルチスライスCT:1台、心臓専用核医学診断装置:1台を有し高度急性期中心の医療を行っている(平成29年病床利用率:79.2%、病床稼働率:90.8%)。 2. 5疾病に関しては循環器専門病院として確かな技術の提供に努め、県内有数の治療実績をあげている(平成29年度実績では急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞: 110件、PCI: 633件、Ablation: 408件、心大血管手術: 219件)。 3. 5事業に関して循環器救急においては24時間、365日断らない体制を整備している。(届出入院基本料7:1、常勤医師は循環器内科医:14名、心臓血管外科医:5名、麻酔科医:2名、形成外科医:1名)。	1.急性心筋梗塞に対する体制の向上 ・Door to balloon timeの短縮、後方連携の強化 2.慢性心不全の急性増悪に対し循環器専門病院としての対応力向上 ・後方連携の強化、急性期治療が終了した患者の慢性期、在宅での受入れ体制を強化 3.足の循環器疾患症例に対しtotal vascular care ・後方連携の強化、地域全体への教育と啓蒙 4.狭心症、慢性虚血性心疾患診断&治療の質向上 ・正しく診断し、最適な治療を行うことによりoutcomeの向上を図る ・運動習慣、食事習慣の改善を中心とした再発予防のための教育と啓蒙
19	医療法人和光会 山田病院	岐阜	地域における後方支援病院として、急性期病院からのサブアキュートの役割、地域で暮らすすべての人が、急な病変などの受け入れに迅速に対応し、安心して暮らせる場所や社会資源の活用に対する提案、調整を医療・福祉・保健・子育てを通し切れ目のないサービス提供を目指している	・地域における自院の機能、役割を広報し、知ってもらう。 ・相談から受け入れに対し、迅速に対応(待たせない) ・入退院前からの他職種による連携支援により地域での生活を見据えた在宅支援体制の構築
20	早徳病院	岐阜	・「設問4・5」で記載の通り、常勤医師数は5名と少数の状況。 ・現病床の稼働率は「設問12」記載の通り、88%内外で推移中だが、若干下降傾向にある状況。 ・人工透析(入院・外来)業務を柱に、医療を提供している状況。透析外来については、患者の搬送(送迎)サービスを付加しているため、東は岐南町地区まで、西は岐阜市近郊・瑞穂市穂積地区まで、南は笠松・羽島地区まで、北は長良川までカバーしている。送迎については自前ではなく、外部委託している。 ・外来診療は行っているが、患者数は「設問13」に記載の通り、増加はしておらず、特に直近は大きく減少の状況。 ・訪問看護、訪問診療、往診等在宅医療が無い状況。	・現状においては、現況程度の患者確保による医療収入を維持しながら、当病院に必要な収益を確保することが肝要。 ・地域医療機関として今後担う役割としては、当病院の強みである透析業務を今後の医療構想の中で活かしていただけるように、現況の維持・確保に努めていくことが課題。但し、中小病院でその特色も限られることから、岐阜医療圏内の役割分担が決定されていく中で、当病院も選択をしいかざるを得ないと思われることが課題と言えるのではと勘案している。 ・現在行っていない在宅医療等については、検討を視野に置いてはいるものの、在宅医療を担う医師・看護師等の医療職の新たな確保及び収支算定等が現在の体制では容易ではないことが課題となっている。
21	みどり病院	岐阜		
22	笠松病院	岐阜	特になし。	特になし。
23	城南病院	岐阜		

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
17	近石病院	岐阜			【新設】 歯科 【理由】 栄養管理を行うことで栄養状態が改善しても、嚥下能力の低下や嚥下不全(入院生活の中でズレが発生したり、そもそもずれていたりしている)等の影響で、口からの摂食行為そのものに課題が残る患者が増加してきている。 退院後のADL低下を防ぐために、転倒予防と併せ、口腔ケア及び歯科診療が必須であると考えているため。
18	岐阜ハートセンター	岐阜		1. 岐阜大学病院、岐阜県総合医療センターらと協力し岐阜県全域における循環器救急に対し高い専門性と技術をもって診断し治療を行う。 2. 急性期を脱した患者を地域連携を通じて回復期病床や在宅に復帰させる。 3. 今後増えることが予想される心不全患者に対し急性増悪期には適切な投薬とリハビリ、栄養指導および患者家族への教育をしたのちに回復期病床との医療連携を通じ在宅復帰させる。 4. ハートの日in GIFU等のイベントを通じ循環器疾患の啓蒙と予防のための生活習慣病対策の重要性を地域住民に伝えていく。	
19	医療法人和光会 山田病院	岐阜	一般病棟(10対1)の継続か地域包括ケア病棟への転換かについては検討しているが具体的な転換時期は決めかねている。	医療・介護・福祉・障害・子育てなど複合的なサービスを提供できる地域の暮らしを支える後方支援病院である	
20	早徳病院	岐阜	現時点では、現況維持を希望するが、役割分担が明示され、各病院がその中での転換選択となれば、止む無しと考える。	「設問21」の紹介率(他病院→当病院)の通り、入院患者の半数以上は他病院からの紹介による患者受入となっている状況。現在も他病院の補完な役割を担っており、本医療構想の中でも、他病院と連携の強化を図りながら、その求められる役割をはたしていく所存。	
21	みどり病院	岐阜			【廃止】 外科 【理由】 50歳代の常勤医師1人体制のため。
22	笠松病院	岐阜			
23	城南病院	岐阜		医療療養病床として医療ニーズの高い慢性期患者の治療とケアに取り組んでいるところであり、2025年に向けても地域での役割を果たしていく所存である。	

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
24	岐阜県立看護が丘こども医療福祉センター	岐阜	入所部門は、重症心身障がい児の受入れ施設としての機能が十分に果たせていない。 在宅医療への支援として短期入所などを行っているが、民営の同様な施設の整備に伴いセンターの需要が減りつつある。 診療部門は、整形外科、小児科、児童精神科ともに地域の診療所等からの紹介により、診療件数は増加傾向にある。	重症心身障がい児を受入れには医師の増員が必要だが、公立直営のため医師の配置数などの自由度がなく、現状改善が難しい。 訪問看護など民営機関との競合する新規事業は、公立直営のセンターでは実施等が難しく、収益改善できないと施設維持が難しい状況にある。 民営機関が短期入所などを実施するなど、センターとしてビジョンが必要となる。
25	関谷内外科科病院	岐阜	・届出入院基本料 療養病棟入院料2 ・平均在院日数 148日(30年4～6月) ・病床稼働率 100%(30年6月末) ・職員数 医師(常勤)2名 (30年6月末) 看護師 18名 看護補助 13名 技師等 5名 事務 3名	
26	操外科病院	岐阜	・診療実績 急性期一般入院基本料7(35床 1病棟のみ)、人工臓器装置 2設備 44台 救急病院(外科) ・職員数 医師 常勤3名 非常勤6名 看護職員 常勤23名 非常勤13名 臨床工学技士 常勤9名 非常勤1名 理学療法士 常勤6名 薬剤師 常勤1名 診療放射線技師 常勤1名 管理栄養士 常勤2名 その他 常勤36名 非常勤3名 ・特徴 4機能のうち、急性期機能が中心 ・担う政策医療 がんの療養機能 脳卒中の回復期機能 糖尿病合併症に対する専門治療機能(人工透析) 救急告示医療機関	・急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる病院として、「5疾病」の中の、がん、脳卒中、糖尿病の患者のほか、様々な疾病の患者の受け入れ。 ・地域の高齢者等の、比較的軽度の疾病に関する入院治療。 ・在宅診療を行う医療機関(自院も含む)からの、24時間対応による後方支援病院としての入院患者の受け入れ。 ・救急告示医療機関としての入院患者の受け入れ。 ・透析施設を有する病院としての入院患者の受け入れ。 等、様々な入院患者を1病棟35床で受け入れている現状について、また開設以来34年の建物についても、当院の役割を再検討した上で、何らかの対策が必要。
27	医療法人社団志願会 加納渡辺病院	岐阜	「信頼される医療、安心できる医療、地域に密着した医療を目指します」の理念の下、急性期病院としてまた在宅支援病院としての機能を発揮できるようなベッドコントロールを行っている。(平均在院日数13日 在宅復帰率95%) 近隣の診療所や介護施設(有料老人ホーム・サ高住等)からの入院も多く、日常的に介護分野との連携が多い。	近隣には一般救急を受け入れる病院が少ないため、今後も中度・軽度の救急患者の受け入れが続く。急患は主に高齢者であるため簡単に退院することが困難なケースが多く、在院日数の増加につながる可能性が極めて高い。患者家族やケアマネ等関係者との連携を密にして急性期医療への理解を求めることも重要となる
28	操レディスホスピタル	岐阜		
29	操健康クリニック	岐阜		
30	芥見診療所	岐阜		
31	くまざき内科	岐阜		

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
24	岐阜県立看護が丘こども医療福祉センター	岐阜			
25	関谷内科外科病院	岐阜			
26	操外科病院	岐阜	・急性期一般入院基本料7の病棟において、地域包括ケア病棟入院料(医療管理料)を算定する病床への転換を検討中		
27	医療法人社団 志保会 加納渡辺病院	岐阜		市民病院や県病院では対応しきれない救急患者の受け入れを強化する。医療依存度が高く在宅療養が困難な患者等へのサポート(住宅系施設入居者を含む)を入院～在宅まで一貫して行う。 リハビリ職員をすべての分野に配置し、地域の自立度を高める活動につなげることを検討する	
28	操レディスホスピタル	岐阜			
29	操健康クリニック	岐阜			
30	芥見診療所	岐阜			
31	くまざき内科	岐阜			

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
32	古田産科婦人科クリニック	岐阜	近年の少子化の影響から平成27年度12月末に分娩業務を停止いたしました。望みがかなって妊娠された患者様につきましては、夫婦の希望、家庭のご事情などをよく伺い、ご希望に沿った分娩施設決定の手助けと、安心の為、早期から分娩予約のお手伝いもしております。そうした上で希望者には妊婦検診を約30週までの期間まで診させて頂いております。周産期医療は何がおこなうかわからない為、必要時は、総合病院に転院手配ができ、安心して出産を迎えられるよう万全なバックアップ体制を心がけています。	駅前の比較的通院しやすい立地に恵まれ、体制の変化に伴い、最近10年間の患者数は増加傾向にあります。その為、職員数を徐々に増員しております。予期せぬ患者数の増加、或いは仕事量の増加にも慌てることなく、柔軟に十分な対応ができる環境を整えたいと思います。そしてその体制を常時維持できるよう務めていく必要があると考えております。現在、高度生殖補助医療を始めとする不妊治療や婦人科疾患の患者が増えています。しかしどちらも患者の高年齢化が進んでおります。是まで以上に内科系をはじめ他科医療施設との連携や健康維持の啓蒙活動等の役割も積極的に担う必要性が高まっていくと考えております。
33	高橋産婦人科	岐阜		
34	小林内科	岐阜	<ul style="list-style-type: none"> ・自施設の理念、基本方針。 ・自施設の職員数。 ・自施設が担う政策医療。 ・他機関との連携、行政との連携。 ・自施設の有床数、慢性期、二次救急特徴。 ・自施設の担う政策医療（在宅医療に関する事） ・他機関との連携・行政との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療需要の減少がみられる。 ・急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療整備の再検討。 ・低所得者層の経済面(未払い者、月遅れの患者等)の対策。 ・在宅医療(施設等を含む)の患者の受け皿となる、医療の整備再検討が必要である。 ・自宅での看取り少ない。
35	フェニックス総合クリニック	岐阜	在宅医療の件数は多くなく、特に訪問看護の件数はやや減少傾向である。	看護師の配置状況により、病棟や外来を優先することが大きな要因である。看護師の配置体制を整え、在宅医療を推進していきたい。
36	フェニックス在宅支援クリニック	岐阜	在宅医療の件数は多くなく、特に訪問看護の件数はやや減少傾向である。	看護師の配置状況により、病棟や外来を優先することが大きな要因である。看護師の配置体制を整え、在宅医療を推進していきたい。
37	そはら赤産院	岐阜	終末期を担う医療機関だが、現状では、7割～8割程度の入居者で経営状態に不安がある。	医師が高齢であり、癌に罹患しており、後継者がいない
38	花林レディースクリニック	岐阜	羽島市内の産科を担っている。	常勤医師の確保。 災害医療への対応。 子育て支援等妊婦等に対する支援の拡充。 不妊症の治療の充実。
39	いとうレディースケアクリニック	岐阜		
40	岐阜泌尿器科	岐阜		
41	松原医院	岐阜	介護施設が増えてきている為、入院患者数が減ってきている。 施設の老朽化、院長の高齢もあり先行きが見通せない。	介護福祉士の不足。 施設の老朽化。
42	永田産婦人科	岐阜		
43	さとうファミリークリニック	岐阜	「かかりつけ医」として地域に密着した診療活動をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会に伴い、在宅・病院・施設等からの入院希望が多くあるが、病床数が少ないためほとんど受け入れられない状況にある ・在宅医療の拠点としての機能の役割もあるが、今後さらに在宅医療の件数が増えた場合どこまで受け入れられるかが分からない。

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
32	古田産科婦人科クリニック	岐阜		女性が仕事を続けながら安心して妊娠・出産に臨められるような環境構築をしっかりと補助していきことができるような医療施設を目指していきます。女性の健康を維持しながら、急性期の対応も可能な限りできる医療体制を維持していきたいと考えています。	
33	高橋産婦人科	岐阜			
34	小林内科	岐阜	・医療処置等が出来る施設が少ない為、慢性期病床に流れがあり、また、施設より有床診療の支払い(本人負担)が少ないため有床診への紹介が多い。人材不足もあり。 ・介護医療院への転換思案中	・循環器疾患等急変の受入の維持 ・地域の現状を含めた慢性期医療の維持。 ・他機関との連携・応援による人材の確保。 ・外来医療の維持。 ・低所得者への応援(行政の応援)。	
35	フェニックス総合クリニック	岐阜			
36	フェニックス在宅支援クリニック	岐阜		予防医療の推進のための、健康診断や人間ドッグなどをこれからも推奨し、疾病の早期発見、早期治療を目指します。また、関連介護施設からの状態変化のある患者を早期にチェックし、必要によりメンテナンスの入院やリハビリを提案していく。	
37	そはら赤座医院	岐阜	未定	今の状態で2025年まで存続をして居ようだったら今の現状の終末期の患者さんの受け入れをしたい	
38	花林レディースクリニック	岐阜		羽島市内の産科において責任を持っていけるように役割を果たす事。妊婦等の子育て支援のサポート業務を推進する事。	
39	いとうレディースケアクリニック	岐阜			
40	岐阜泌尿器科	岐阜			
41	松原医院	岐阜	介護療養病床を介護医療院へ転換予定。時期は未定。	超高齢化社会に向けて、療養病床の必要性は高いので、今後も受け皿となるべく慢性期病床を継続していく。	
42	永田産婦人科	岐阜			
43	さとうファミリークリニック	岐阜		地域のニーズに合わせた医療を安定して提供できる状態にすること	

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
44	福富医院	岐阜		
45	モアレディースクリニック	岐阜	産婦人科医師不足により、患者に対する人数が足りていない。 看護師、助産師等スタッフの確保や保育所の設置等環境整備に苦労している。	現状を維持していく事。 人材確保。
46	おおのレディースクリニック	岐阜		
47	こめの医院	岐阜	稼働する人材確保出来ず。	人材確保する事。
48	堀部クリニック	岐阜	急性期と在宅支援の中間施設として位置づけられている。	特になし。
49	西岐阜産婦人科医院	岐阜	医師1人での運営で、後継者がいないので、続く限り継続します。	特になし。
50	まつなみ健康増進クリニック	岐阜	・当クリニックは、2002年に以前から稼働していた松波総合病院附属診療所から外来部門を強化・発展させ、人間ドック・健診センターを備えるクリニックとして稼働している。また、患者が通院中に症状が悪化し、入院加療が必要となった場合には、松波総合病院に全面的にバックアップしてもらえる体制を整えている。 ・地域住民への食事療法、運動療法を含めた生活習慣の改善を通じて健康そのものを増進することに主眼をおいた治療を行い、致命的な疾患をできる限り引き起こさないよう配慮している。 ・当クリニック3階には、最新の医療機器と充実したコースを整え、専門スタッフも配置した人間ドック・健診センターを設置している。	松波総合病院と協力の下、下記の課題について協議を行い、当クリニックの役割について再検討していく。 ・小児医療について ・質の高いがん診療の強化 ・急性心筋梗塞対策について ・糖尿病対策について ・精神疾患対策について ・在宅医療の推進
51	服部耳鼻咽喉科	岐阜	地域医療	現状維持
52	サンライズクリニック	岐阜	・当院は消化器内科、循環器内科、放射線科を中心に生活習慣病をはじめ様々な疾患のプライマリーケアに対する診療を行っている。また人間ドック、健診部門が独立しており疾患の早期発見に努め、当院外来部門及び連携医療機関との綿密な連携により早期治療に繋げている。また地域に密着した家庭医を標榜するクリニックとして、訪問診療・往診も行っている。	・今後人口減少による医療費負担増抑制の為に、さらに予防医学、疾患の早期発見・早期治療が重要視されてゆく中、当院の役割は、人間ドック・健診により疾患の早期発見した場合は当クリニックにおいて高度な医療機器を用いて精密検査を実施し治療してゆく。さらに病状によっては専門性の高い連携医療機関に紹介し治療に繋げる。また地域医療の観点から引き続き訪問診療・往診は実施してゆく。

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
44	福富医院	岐阜			
45	モアレディースクリニック	岐阜			
46	おおのレディースクリニック	岐阜			
47	こめの医院	岐阜			
48	堀部クリニック	岐阜			
49	西岐阜産婦人科医院	岐阜		多分、廃業していると思います。	
50	まつなみ健康増進クリニック	岐阜	※人間ドック専用病床として引き続き稼働させていく。	松波総合病院と協力・協議を行い、当クリニックが担うべき役割について対応していく。 ○小児医療について引き続き小児科医療(小児救急も含む)も提供していくが、更に小児発達障害児等の増加が考えられ、医師だけではなく臨床心理士によるサポート体制強化を図っていく。	【新設】 老年内科、乳腺外科、甲状腺内科、移植外科、アレルギー科 【理由】 ・岐阜圏域南部の地域医療を維持するために、現在標榜している診療科を維持しつつ、新オレンジプランにおける認知症予防として老年内科を新設し、同一法人の松波総合病院と総合的に対応していく。 ・岐阜圏域南部に専門的な医療を提供する施設がないため、下記の診療科を新設し、同一法人の松波総合病院と協力して、地域に医療を提供していく。 (乳腺外科、移植外科、甲状腺内科、アレルギー科)
51	服部耳鼻咽喉科	岐阜		不明	
52	サンライズクリニック	岐阜			